

授業科目名	人体構造機能学Ⅱ (解剖生理)	担当教員名	山口 眞弘			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・30時間		●			
授 業 形 態	講義		●－必修・○－選択			
授業の概要 学習目標	<p>〔授業の概要〕 人体の正常な構造とその機能を学び、病気の成り立ちを理解し、それに基づいて診断と患者の治療・看護が行われる。そのための基礎として、人体を構成する基本単位の細胞とその組み合わせの組織及び人体各部位の構造物（器官）の構造と機能について系統的に学ぶ。</p> <p>〔学習目標〕 器官系ごとに細胞や組織レベルで形態と構造を理解するとともに、各器官の位置や機能の連関、疾患との関連等について身につけることを目的とする。医学的知識の根幹を身につけた上で、人体を見る目を養う。また、無意識に行われる植物性機能、意識して行われる動物性機能を個別に理解した上で、これらが神経系や内分泌系の統率のもとに、協調・拮抗を経て全体として目的にかなった身体の働きを具現していることを学ぶ。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容					
第1～7回	情報の受容と処理（中枢・末梢神経系、感覚器系）					
第8～9回	外部環境からの防御（免疫系）					
第10～13回	生殖・発生と老化の仕組み（生殖器系）					
第14回	体表から見た人体の構造					
第15回	まとめ					
成績評価の方法	レポート及び出席状況を参考にして、まとめの結果を中心に成績評価を行う。					
テ キ ス ト	テキスト：系統看護学講座 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院					
参 考 図 書	人体の構造と機能 マリーブ 医学書院、ナーシンググラフィカ 解剖生理学 メデイカ出版、解剖生理学 メヂカルフレンド社、シンプル解剖生理学 南江堂					
履修上の留意点	看護師を志す人にとって、基本的な必須事項は、人体の正常な構造と機能を十分に理解することです。あらゆる生き物の中で、もっとも高度に進化しているのは人間です。その人体の成り立ちと仕組みのすばらしさに感銘を受け、みずから好奇心を持って学ぼうという姿勢を持つことが、この科目の習得の鍵になります。					